



中日新聞三河版企画 「三河から宇宙へ・・・」

ものづくりの宝庫・三河をPR 純蒲郡産人工衛星“がまキューブ”を特集

昨年10月29日、種子島宇宙センターから「H2Aロケット40号機」が打ち上げられました。ロケット内には、愛知工科大学と地元蒲郡の企業7社が協力して作られた人工衛星「がまキューブ」が搭載されています。「がまキューブ」は、蒲郡市を加えたまさに産学官が三位一体となったプロジェクトで、大きな話題を呼んでいます。

「がまキューブ」は、一辺が10センチの立方体で、片手に収まるくらいの超小型衛星。太陽電池で発電した電気を溜めてLEDを光らせ、この光を地上から肉眼で観測したり、遠隔操作で点滅させたりする計画です。さらに魚眼レンズも搭載しており、宇宙空間を360度撮影して地上に送信することも可能としています。

このプロジェクトは、愛知工科大学の西尾正則教授が「三河エリアの技術を結集すれば今までにない衛星が作れるのではないかと考え、スタートしました。西尾教授が設計を担当し、金属加工などを得意とする地元の企業7社が機体の制作に協力。それぞれの技術を持ち寄り、JAXAから要求されるレベルを大きく上回る高精度の衛星が誕生しました。

衛星開発は、機械、電気、コンピュータ、情報通信などが1つに詰まった究極のものづくりと言われていいます。中日新聞では、「ものづくり三河」をアピールするため、「がまキューブ」をテーマにした特集紙面を地元三河版にて制作。西尾教授を取材し、「がまキューブプロジェクト」についての熱い想いを語って頂きました。

この特集は三河エリアから、計12社の協賛で掲載されています。元々製造業の強い三河エリアの魅力を今後さらにPRしていきます。

名古屋本社広告三部 三河アドセンター 安井 新悟

◀2018年12月29日付 中日新聞朝刊三河版

23 (土曜) 三河 2018年(平成30年)12月29日(土曜日) 中日新聞 三河版

三河から宇宙へ・・・ ものづくりの宝庫・三河。技術・ノウハウを生かしてさらなる夢を実現。 新しき時代の夢と希望の幕開けに向かおう。 「がまキューブ」一辺が10センチの立方体で、片手に収まるくらいの超小型衛星。太陽電池で発電した電気を溜めてLEDを光らせ、この光を地上から肉眼で観測したり、遠隔操作で点滅させたりする計画です。さらに魚眼レンズも搭載しており、宇宙空間を360度撮影して地上に送信することも可能としています。

- 超小型衛星製作参加企業
株式会社 蒲郡製作所
株式会社 飯島産業
飯島精密工業 株式会社
株式会社 加藤カム技研
株式会社 三協
株式会社 中川製作所
有限会社 細井鉄工所

地域活性化を応援しています
THE ART OF EYE CARE
70th がましん
JA愛知みなみ
IOTを活用した次世代農業を応援します JAUまわり
イベントで「使える」会社あります。
FLIGHT PLAN ORIGINAL
BOAT RACE 蒲郡